

二〇二四年の振り返りと今年の目標

医学科三年 有澤京子

二〇二四年の部活動は、大変充実し、有意義な一年間であったと感じています。具体的には、コロナ禍を経て再開し始めている中四国大会、西医体といった公式戦はもちろんのこと、部員全体として最も印象に残っているのは、高知大学剣道部が主幹となって開催した四国大会ではないかと私は思います。

前回高知大学医学部剣道部が大会の主幹をしたのはコロナ以前のことで、十分な引き継ぎや参考資料などもない中、現幹部を中心として手探りで始まった大会運営の準備はとても苦労しました。仕事の割り振りがうまくできなかつたり、共有事項がうまく伝わっていかつたりと、しんどく感じることも多々ありましたが、部員全員でなんとか成功させることができてとても安心しました。今までは大会の参加者としての立場でしかいませんでしたが、初めて運営する側としての立場を経験して、運営することの難しいところとうまくいったときの達成感の両方を味わうことができ、将来につながる学びと経験を得られたのではないかと私は感じています。

次に、二〇二五年は、先輩としても後輩としてもこの剣道部を支えられるようなマネージャーになりたいと思います。今年、今まで私達を引っ張ってくださったマネージャーの先輩方が看護四年生で引退されていたこともあり、マネージャーの中では最上級生となっていました。特に公式戦の際には、どうしたらよいか分からない場面で相談する先輩マネージャーの方がいないこと、さらに、後輩も引っ張っていかなくてはならないことで、初めて自分が先輩としてしっかりしなければと感じました。マネージャーの先輩として、また、先輩プレイヤーの後輩として、今一度自分の役割を認識して果たしていきたいと思えます。

最後に、OB・OGの皆様や関係者の皆様に嬉しい活動報告ができますようこれからも部員一丸となって精進してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。